

シラバス

教 科	科 目	単位数	学 年	コ ー ス	組
国 語	文 学 国 語	3	2	文系NP	9

教科書	『文学国語』（筑摩書房）	副教材	『読解を深める 現代文単語 評論・小説』（桐原書店）
			『上級入試漢字・語彙』（桐原書店）ほか

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力をのばすことを目指す。この際、生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使えるようにするとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力をのばすことを目標とする。</p>
-------	---

科目の概要	<p>「現代の国語」「言語文化」により育成された資質・能力を基盤として、人の心の機微にふれ、日常の生活を見つめなおす契機として重要な役割をはたす文学的文章の学習を通じて、特に感性や情緒、共感力、表現力の育成に努めつつ、今後の文化の継承と創造に欠くことのできない資質・能力を獲得するための科目である。</p>
-------	---

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」 ⑥「受信・発信力」 ⑨「自己管理能力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	②「課題対応力」 ⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深められたか。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力をのばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできたか。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりできたか。
評 価 の 方 法	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○授業内・外での学習活動等 ○課題への取り組み・提出状況 以上をもとに、学期末・学年末の平常点で評価する。

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	◇ガイダンス（1時間程度） ◇随想・評論 梨木果歩「プラスチック膜を破って」（4時間） 高階秀爾「実体の美と状況の美」（4時間） ◇漢字・語彙の学習（1時間程度） 【1学期 中間試験】 5月18日～21日	○文章の読解を通じて、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ○それぞれの文章の文体的な特徴や修辞などの表現技法について、体系的に理解し、あわせて自分の文章にも使えるようにする。 ○文章の構成、展開、描写等を的確に捉えられるようにする。
	◇中間試験のふりかえり（1時間程度） ◇小説 中島 敦『山月記』（9時間） 角田光代『私は——書き出しの一行』 小説のポイント（あわせて2時間程度） ◇漢字・語彙の学習（1時間程度） 【1学期 期末試験】 7月1日～7日	○小説の読解を通じて、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ○文学的文章の特徴や小説という表現形式について理解し、あわせて修辞などの表現技法についても体系的に理解し、自分の創作にも使えるようにする。
2 学 期	◇随想・評論 藤原辰史「金縷いの景色」（5時間） ドミニク・チェン「未来をつくる言葉」（3時間） 松山 巖「建築論ノート」（3時間） ◇漢字・語彙の学習（1時間程度） 【2学期 中間試験】 10月13日～16日	○それぞれの文章の読解を通じて、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ○それぞれの文章の読解を通じて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ○文章の構成、展開、描写等を的確に捉えられるようにする。
	◇中間試験のふりかえり（1時間程度） ◇小説 夏目漱石『こころ』（10時間） ◇漢字・語彙の学習（1時間程度） 【2学期 期末試験】 12月1日～7日	○小説における語り手の視点、場面設定、表現の特色を評価することを通して、内容を解釈できるようにする。 ○小説の構成や展開、表現を踏まえ、解釈の多様性について考察できるようにする。 ○作品成立の背景や他の作品との関係を踏まえて、作品の解釈を深められるようにする。
3 学 期	◇詩歌 室生犀星「小景異情」 中原中也「サーカス」 宮澤賢治「永訣の朝」（あわせて5時間程度） ◇随想・評論 寺田寅彦「化物の進化」（5時間） ◇漢字・語彙の学習（1時間程度） 【3学期 学年末試験】 3月4日～9日	○詩の読解を通じて、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ○それぞれの詩の特徴や修辞などの表現技法について、体系的に理解し、あわせて自分の表現にも使えるようにする。 ○文章の読解を通じて、ものの見方、感じ方、考え方を深められるようにする。